

科目分類	一般教養科目 人間と社会		開講時期	1年	後期
授業科目	言語と表現				
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位	30時間	授業形態 講義
担当教員	木村 小夜				
メールアドレス	sayo@fpu.ac.jp	オフィスアワー	授業の前後		

授業目的	<p>1. 作家達の様々な日記や手紙・告白・手記形式の作品を読み、それぞれの叙述の特性を通して、人間の描かれ方を理解する。</p> <p>2. 言葉は、いわゆる〈情報伝達的手段〉に終始するわけではなく、人の心のありかたにたえず連動して発現される「なまもの」であることを知る。</p> <p>3. 読み取った内容や与えられた課題に即し、自分の考えが他の人に理解されるよう、適切に言葉で説明・表現する。</p>
授業概要	<p>私達はなぜ自分について書き、語ろうとするのだろうか。日記や手紙・手記は文学の源流の一つでもある。代表的な作家達の著述を通して、こうした文章の特性・多面性について理解を深める。なお、授業中に数回意見を書いてもらうことで多様な読みの可能性を紹介し、これを共有しながら講義を進める。</p>
授業内容	<p>第1~2回 はじめに -自分について「書く」「語る」ということ-</p> <p>第3~4回 日記と文学(1) -正岡子規「仰臥漫録」・島尾敏雄「死の棘」など-</p> <p>第5~6回 日記と文学(2) -石川啄木「ローマ字日記」を読む-</p> <p>第7~8回 装置としての手紙(1) -作家達の手紙とその背景-</p> <p>第9~11回 装置としての手紙(2) -手紙の特性を太宰作品から考える-</p> <p>第12~13回 告白をめぐる(1) -芥川龍之介「藪の中」を読む-</p> <p>第14回 告白をめぐる(2) -島崎藤村「破戒」など-</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>
教科書 参考書等	資料を配付する。
成績評価 基準・方法	<p>期末試験 50%、小課題 50%</p> <p>試験は記述式。また、授業中に数回、200字程度の課題提出を求める。</p>
履修要件	なし
留意事項 その他	事前に指定された作品を熟読し、必ず予習した上で受講すること。